

10 ポイントは授業構成

単元（題材）の「導入・展開・まとめ」

毎時間の授業にも、開始から終了に至る流れはあります。しかし、指導計画は単元（題材）全体を見通して立てるものです。「導入・展開・まとめ」は、1 単位時間の授業というより、学習のまとまりごとに設定するものと考えるとよいでしょう。

ただし、はじめにどのような活動をして意欲を喚起しようか、中心となる学習活動は何か、次の時間にどうつなげるかといった1 単位時間の授業の構想は必要です。

1 単位時間の構想

1 単位時間の授業は、「指導と評価の計画」（2章－5）の中に位置付けられたものです。目標の実現のために、観点別の評価規準を配置して本時の学習の構想を練ります。

1 単位時間の授業内容は、ほかの授業内容とつながっています。各時間の授業の位置付けを確認し、どうしたら効果的に生徒が目標を実現できるかを考えながら、それぞれの授業の構成を考える必要があります。

授業構想の4つのポイント

次の要点に沿って1 単位時間の流れを構想しましょう。

- ★ 本時で身に付けさせたい力の確認
- ★ 評価の場面と方法を想定
- ★ 主体的な学びを促す工夫
- ★ 時間配分と山場づくり

個別支援
が必要な
生徒への
対応を考
えよう

学習集団にマッチした授業構成を！

話すことが苦手、聞くことが苦手、書くことが苦手、話し合いが苦手…どの学級にも特性を持った生徒がいます。彼らの特性を把握し、各学級に合った授業構成を考えることが大切です。彼らも授業に参加したい、理解できるようになりたいという気持ちを持っている生徒です。

単元指導計画や学習指導案の中に、「書くことが苦手な生徒には、机間指導の中で書きたい内容に気付かせる」、「聞くことが苦手な生徒がいるので発問の内容は板書する」など、生徒に応じた配慮事項を書き加えられたらさらに良いですね。



〈例〉 「国語・国語総合・小説」 「羅生門」

《単元の目標》（全5時間）

- ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。（読むことウ）
- ・文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（イ））

《具体的な評価規準》（2時間目）

- ・人物、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付こうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・人物、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付いている。（読む能力）
- ・語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。（知識・理解）

《本時の流れ》（50分授業）

| 評価の観点と方法 | 分 | 学習活動と指導上の留意点 |
|---|----|---|
| <p>【評価規準】 人物、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉えている。（読む能力）</p> | 3 | <p>・本時の学習の見通しを立てる 「物語の続きを創作するために、場面ごとの下人の心情とその変化を捉える」</p> <p>・下人の心情を読み取る</p> <p>①グループをつくり、担当する場面を決める。</p> <p>②個人で担当部分の整理をする。</p> <p>③担当部分を持ち寄り、グループで心情の変化を捉える。</p> <p>④同じ場面を担当している者同士で集まり、内容を再検討する。</p> <p>⑤もとのグループに報告できるよう、④の再検討の結果を個人でまとめる。</p> |
| <p>【評価方法】記述の確認 下人の心情の変化についてまとめたワークシートの記述を確認する。</p> | 3 | |
| <p>【Cの生徒への手立て】 ②の場面 机間指導を行い、まずは本文の該当箇所に線を引き、その後でまとめるよう助言する。</p> | 14 | |
| <p>③④の場面 ②でまとめたものを基にして話し合うとともに、他者の意見をよく聞き、記録するように助言する。</p> | 10 | |
| <p>⑤の場面 机間指導を行い、③④の場面での記録を参考に自分の考えをまとめるよう助言する。</p> | 15 | |
| | 5 | <p>【指導上の留意点】 下人の心情を考える際には、必ず本文の記述を根拠とさせる。</p> <p>（次時は元のグループに戻り、④で得た意見や表現の効果などを確認しながら、もう一度下人の心情の変化についてまとめる→「物語の続き」の創作へつなげる）</p> |

本時は、「読む能力」の評価規準のうち、人物、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉えることを、目標としています。

はじめに、学習活動の流れと、活動の意義や目的を明確にすることが大切です。

話し合い活動の前には、個人の考えを形成する時間を十分に確保します。

途中でグループを組み替えることで、考える視野も広がり、学習活動が単調になることも防ぐことができます。

話し合いの結果を個人の考えにいかすための時間も、確保する必要があります。

本時の「評価規準」は、「人物、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉えている」です。必ず本文の記述に基づいて考えたり話し合ったりするよう、1時間を通して常に意識付けすることが大切です。

90分の授業構成

90分間、生徒の興味や関心、集中力などを持続させるのは難しいものです。そこで、授業の構成の工夫が必要になります。例えば、「書く」、「話し合う」、「読む」といった活動を効果的に取り入れます。その際には、それぞれの活動が生徒の学びの深まりにつながるものとなるよう心掛けましょう。ただ、気分転換のためだけに取り入れる活動は望ましくありません。

また、90分という時間をいかし、じっくりと考えさせたり、十分協議させたりすることができます。そのための資料の準備や展開の工夫などを考えることも大切です。